

# 平成28年度県立芦屋高等学校学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

## 1 学校経営のテーマ

「グローバル社会を生き抜く魅力ある芦高、芦高生の創造～生徒・保護者の夢を叶える進路実現を～」

○めざす「芦高」像  
教育綱領「自治」「自由」「創造」の具現化と新たな学校文化の創造

- ・高貴な人格と確かな学力を育む「学び」を徹底する学校
- ・地域の伝統校として期待され信頼される学校
- ・不易と流行、温故知新の気概が息づく学校

○めざす「芦高生像」  
論理的思考力があり、自治を重んじるとともに自由で柔軟な発想ができる生徒

- ・変化の激しい時代において、様々な困難や課題に果敢に挑戦できる生徒
- ・志を高く掲げ、したたかにそしてしなやかに努力できる生徒
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる、こころ豊かで自立した生徒

## 2 本年度の重点目標

第2期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の6項目を重点目標とする。

- (1)「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実
  - ア 自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育成する。
  - イ 勤労や職業に対する考え方を育むとともに、個に応じた支援の充実に努める。
- (2)基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実
  - ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努める。
  - イ 多様な選択科目の設置や少人数授業、きめ細かなキャリアガイダンス等を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する能力を育成する。
  - ウ 問題解決的学習や体験学習を積極的に取り入れ、学習した内容を活用する力の育成に努める。
- (3)教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上
  - ア 生徒の多様なニーズに対応するため、教育内容や教材の精選、指導方法の工夫に努めるとともに、相互に研修する機会を設け、「教育の専門家」としての 資質・能力の向上に努める。
  - イ 教職員が互いに努力を認め合い、励まし合うことのできる人間関係づくりに努める。
- (4)地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進
  - ア 学校の教育方針や教育内容について保護者や地域住民等への理解を図るとともに、学校への要望などにも留意し、地域に信頼される学校づくりを進める。
  - イ 地域住民と連携し、「高校生ふるさと貢献活動事業」の積極的実施を通じて、開かれた学校づくりを推進する。
- (5)自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成
  - ア 生徒一人一人に社会生活のルールや基本的なモラルを守る倫理観の育成を図るとともに、自己責任の自覚、自立心の涵養に努める。
  - イ 命の大切さを基盤とし、学校内外の活動や体験を通して、やさしさや寛容の精神を育み、共に助け合って生きる心の教育を進める。
- (6)防災教育及び安全教育の推進と豊かな共生の心の育成
  - ア 地域及び関係機関等と連携して、震災後の取組を発展させた防災教育の充実に努める。
  - イ 生徒の心のケアに対応する校内の教育相談体制の整備に努める。

## 3 総合的な自己評価

通学服を正しく着用する、年次章を付ける等の芦高生としての規律の部分において、生徒・保護者の意識も高く昨年度と比較して大きな成果を挙げている。防災訓練やクリーンアップ作戦などの地域との交流や貢献に係る効果的な取組が継続して行われており、生徒・保護者の意義への理解がすすんでいると感じる。また、授業や小テスト、課題への取組、補習への参加の度合いなど、自分の進路実現に向けた様々な仕掛けを行っており、少しずつではあるが、成果を挙げている。

進路のしおり、ガイダンスブックなどの冊子、「芦高T i m e s」（学校新聞）、年次だより、進路のしおり、図書館だよりなど生徒・保護者に対して様々な広報がされているが、保護者の手元に届いていなかったり、きちんと読まれていなかったりするなど、活用効果が現れておらず、今後は、配布方法や広報の方法について、生徒・保護者に十分活用してもらえる広報誌になるようもっと工夫を重ねて行きたい。

「あなたは、学校生活が楽しいですか」「お子様は楽しく学校に通っていますか」という生徒・保護者アンケートの結果から8割以上の”Yes”を得ているが、昨年度から少し低下したこと、2割に近い生徒が不満を抱えていることについて、十分留意しながら教育活動を行っていきたい。

## 4 学校関係者評価総括

明るくて生き生きしている生徒が多い。授業をちゃんと受けている。日常的な授業がしっかり出来ている印象を受けた。通学服をきちんと着こなすようになった等、生徒と保護者では観点がちがうか、双方ともよい評価が出ていると生徒・職員の努力を評価して頂いた。ただ、「学校生活が楽しいですか」に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒が18%おり、不満の生徒の思いをしっかりと受け止めてほしい、とのご意見も頂いた。

今年度から始めた外国人生徒の特別枠選抜により受入れに対しては、興味を持たれる委員の方が多く、これから必要な制度である。日本で働く外国人がもっと増えてくるグローバル化の時代に、生徒が高校から外国人生徒と一緒に過ごすいい機会になるとのご意見を頂いた。防災教育への取組を評価して頂く一方、学校ホームページや広報紙『芦高Times』について、行事の羅列になっている。生徒がどのような受け止め方をしたのか、生徒の生の声を発信して欲しいとのご意見も頂いた。

卒業式に感動した。マスコミに取り上げられる機会が増えとても勢いが出てきている。生徒にプライドを持たせるチャンスである。学習面でも期待している等の学校の取組に良い評価を頂いた。

## 5 次年度に向けた重点的な改善点

通学服の着こなしなどの生徒指導面での向上を更に図り、授業規律の徹底、自学自習の学習習慣の定着を図り、自習室の設置や補習体制を充実させて学習体制が学校文化になるように定着させたい。また、外国人生徒の受入れをグローバル教育充実の機会ととらえ、海外語学研修や留学生の受入れを通したコミュニケーション力の向上、講演会や発表会の実施によるプレゼンテーション力の向上を図りたい。更に、3学期制に改編することをきっかけとして、知識を深めて、応用したり、分析したりする探究学習を取り入れたい。

6 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実	①「芦高タイム」の時間や、『シラバス』『ガイダンスブック』の充実を図り、情報提供を効果的に行うとともに、志望進路に応じた科目選択の指導を各年次、保護者との連携を密にしなが、適切に行う。 【ガイダンス課】	①「芦高タイム」の中での自己評価満足度の調査及び、『シラバス』『ガイダンスブック』の使用状況調査により評価する。 【ガイダンス課】	B	①「シラバス」「ガイダンスブック」については、生徒の約40%、保護者においては約55%が役立っているとの肯定的評価をしている。科目選択指導の際には、これらの冊子と同時にわかりやすい別紙を配布し活用している。冊子の内容が基本となっており、その認識の上で「シラバス」「ガイダンスブック」の活用を工夫する必要がある。 【ガイダンス課】
	②「A U S S 進路ナビ」「A U S S 仕事ナビ」の中で、大学生や社会人の生の声を聞き、進路選択の幅を広げる情報提供を行う。 【ガイダンス課】	②「A U S S 進路ナビ」「A U S S 仕事ナビ」の実践内容の充実と生徒感想、及び満足度の調査により評価する。 【ガイダンス課】	B	②各種A U S S ナビについては、生徒の約40%、保護者の44%が役立っているとの肯定的評価をしている。行事の意義や内容をHRや年次通信等の中でより細かく知らせたり、講義内容の工夫を行ったりする必要がある。 【ガイダンス課】
	③各年次で『進路のしおり』を活用したLHR、進路別説明会及びA U S S キャンパス・インターンシップ(出前講義)を活用して、進路選択の幅を広げ、進路意識の向上に努める。 【進路課】	③進路別説明会、A U S S キャンパス・インターンシップの実践内容及び満足度に関するアンケートにより評価する。 【進路課】	B	③A U S S キャンパスは29講座の出前講義を実施、インターンシップは芦屋市役所防災課の協力を得て実施した。事後アンケートでは「大変良かった」の割合が最も多かった講座が22講座であった。進路別説明会では、各年次で生徒が熱心に講師の話聞いていた。『進路のしおり』は年次集会等で活用したが、生徒の進路意識向上に役立てるためLHRでの活用等に工夫の余地があると思われる。 【進路課】
	④個人面談の実施と進路希望調査により、第一志望を明確にし、進路実現させる。 【3年次】	④各生徒が、進路希望調査で確定した第一志望について、結果に繋げることができたかを分析して評価する。 【3年次】	B	④国公立大学志望者の多くはセンター試験の得点を考慮しつつ、出願することによって受験姿勢を貫くことができた。私立大学志望者は、予てからの志望先を変えず、実力相応校も加えて臨んだ結果、2月末の段階で関西の難関大学に例年を超える合格数を出すことが出来た。 【3年次】
基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実	①各教科各年次に日常の補習授業を年間を通して計画的に実施するよう依頼し、模擬試験等での目標値に近づける努力をする。また、模擬試験等の分析を適宜実施し情報の共有に努め、以降の指導につなげる。 【進路課】	①補習講座数、出席者数及び満足度の調査と模擬試験の成績分析及び成果の確認により評価する。 【進路課】	B	①日常の補習を年間を通して実施、また夏季補習・冬季補習も実施した。夏季補習は34講座延べ1078人が参加し盛況であったが、講座が前期に偏り、後期補習の充実が望まれる。模擬試験の分析を年2回実施し以降の指導につなげたが、情報の共有についてはセキュリティ面に配慮しつつ改善の必要性を感じる。 【進路課】
	②高大接続推進事業、学校設定科目を活用した発展的学習による学力向上を進める。 【教務課】	②学校設定科目の履修状況、高大連携科目の受講者の感想やアンケートにより評価する。 【教務課】	A	②学校設定科目は来年度39科目開講する。今年度の高大連携科目受講者の感想では「深いことが学べた。」「役に立った。」など肯定的なものであった。神戸大学との高大接続推進事業では、神戸大学工学部の施設見学、本校生徒による研究発表を行い、参加生徒に好評であった。また、高大接続推進事業を機に、12月の防災訓練で、神戸大学の協力を得ることができ、事業の成果を全校生徒に還元することができた。 【教務課】
基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実	③アドバンストクラスを設置し、早朝に補習(国数英)や自学自習の時間を確保し、学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着を目指す。 【1年次】	③模擬試験や定期考査の成績を分析し、生徒の取組状況については生活実態調査の分析により評価する。 【1年次】	C	③アドバンストクラスへの参加人数の減少に伴い、全体の底上げには十分ではなかった。次年度は早朝補習(国数英理)の補習も充実させ、学習時間の確保を図り、進路実現を支援したい。 【1年次】
	④基礎学力の向上を図りながら、主体的に学習する習慣を身につける。 【2年次】	④模擬試験や定期考査の成績を分析し、生徒の取組状況については生活実態調査の分析により評価する。 【2年次】	B	④朝の小テストに対する取り組みは概ね優良、模試分析からも例年に比べて基礎学力は向上している。主体的な取り組みについては、7月の生活実態調査において1日の学習時間が0～0.5時間の生徒が年次の半数を占める(53.1%)など、学習習慣の定着からはほど遠い。2年次夏での学習合宿の実施や、2月進研マーク模試を実施するなど学習に対する新たな試みを実施している。3月の「学習状況リサーチ」が楽しみである。 【2年次】
	⑤早朝、昼休み、放課後の補習を充実させて、学力の向上を図り、進路実現を目指す。 【3年次】	⑤模試の成績、および、センター試験本試の結果を分析し、成績の向上の度合いを評価する。 【3年次】	C	⑤模試成績は概ね横ばいであった。11月の最終の模試以降に努力がみられたが、センター試験の国語が、かなり難しかったことも影響し全国平均との差が広がった。他の科目に関しては例年並だった。 【3年次】
教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上	①「確かな学力」を育成するために、授業における言語活動の充実、ICTの活用を推進する。 【教務課】	①授業におけるICTの活用状況の調査を実施し、授業研究の実施状況の過年度比較を通して評価する。 【教務課】	B	①授業におけるICTの活用状況は良好である。今後、中教審答申で示された「主体的、探究的な深い学び」を実現するために、授業研究を推進する必要がある。 【教務課】
	②教師用PCの整備が十分ではないので、順次交換を進めていく。 【広報情報】	②年度末段階で整備状況の確認を行うことで評価する。 【広報情報】	B	②順次古いものとの交換はほぼ終えているが、今度は不安定なPCが増えており、その対応を考える必要がある。 【広報情報】

重点目標	実践項目	評価方法		達成状況と改善の方策
地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進	①学校HPの更新頻度を高め、『芦高タイムズ』の内容を充実させることで、本校の教育活動について、地域や保護者の方に広く認知していただき、ご理解を頂けるよう広報活動の充実をはかる。【広報情報】	①学校HPの更新回数の過年度との比較、『芦高タイムズ』の発行回数、内容の評価を行うとともに、保護者アンケートによりHPや芦高タイムズによる、本校の教育活動についての関心がどのように高まったかを分析して評価する。【広報情報】	B	①芦高タイムズや本校HPは、本校生の活動の状況などが伝わるよう工夫している。学校評価アンケートでは、『芦高タイムズ』を読んでいるのが生徒50%、保護者70%、HPを多くの生徒は閲覧しているが、保護者50%ほどにとどまっている。以前よりは割合が高くなったが、一層呼びかけていきたい。【広報情報課】
	②地域清掃活動の充実をはかる。【総務課】	②地域環境の向上に寄与できたか、活動に対する生徒の姿勢や関与の度合い、地域住民などの声をもとに評価する。【総務課】	B	②昨年に比べクリーンアップ作戦の地域を限定し、より丁寧に環境美化に対応することができた。【総務課】
自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成	①年次章の着用の徹底を図る。【生徒課】	①全校・年次集会等での着用状況を確認する。【生徒課】	A	①年次章は着用率は高まっている。今後も自治会からの継続的な呼びかけ、全校集会でのチェックを重ねたい。【生徒課】
	②通学服の正しい着用を促す。【生徒課】	②生活実態調査の結果を分析して評価する。【生徒課】	A B	②学校評価アンケート結果から生徒・保護者は、通学服を正しく着用することができていると感じている人が多い。しかし、教員の評価は低く、このギャップについて今後検証したい。全校集会・通用門での登校指導は効果が出ているが、登校後に女子生徒の中には、キュロットの長さを変える現状がある。正しい着用を全教員一丸となって今後も促したい。更に、自治会執行部・代議委員を通して自治の能力を身につけさせる指導をしていきたい。【生徒課】
	③女子スカートの指導と年次章の着用の徹底を重点的にを行い、生活指導を通して芦高生としての自覚を培う。【1年次】	③年度末の達成状況の検証と、生活実態調査の分析により評価する。【1年次】	B	③生徒課の指導により女子のスカート、年次章の着用は十分達成している。今後は指導されなくとも自主的に行えるようにしたい。【1年次】
	④生活指導を通して自治を身につけ、何事にも主体的に行動できる姿勢を培う。【2年次】	④年度末の達成状況の検証と、生活実態調査の分析により評価する。【2年次】	B	④通学服を正しく着こなす、年次章を着用する点では、生活実態調査の生徒評価、保護者評価、ならびに年次教諭評価からも、一定の「自治」の態度は身につけている。修学旅行では主体的な取り組みを期待、計画し、実施後アンケートからも高い評価を得たが、学習や清掃面を含む他方面での主体性の発揮としてはまだまだ不十分である。【2年次】
	⑤心の教育の推進のため、キャンパスカウンセラーの活用による年次との連携や情報交換を充実させる。【保健課】	⑤カウンセリングを必要とする生徒や保護者、教員とキャンパスカウンセラーをつなぎ、年度末には利用人数をまとめ、過年度と比較して評価する。【保健課】	B	⑤全校生徒に教育相談体制を知らせるよう、各教室にカウンセリングの日程を掲示した。保健課と年次等の連携によりカウンセリングを必要とする生徒や保護者には、問題発見に有効に活用できた。昨年に比べ利用者は増え、27回実施中、毎回希望者がおり予約が取れないときもあった。今後も必要ときに利用できるようにしていきたい。【保健課】
防災教育及び安全教育の推進と豊かな共生の心の育成	①災害発生時の管理職・保健課への連絡体制の迅速化をはかる。【保健課】	①災害発生連絡票(担任・顧問)の作成、実用化し、年度末には従来と比較して迅速化が図れたかを検証して評価する。【保健課】	B	②災害発生連絡票も活用したが、生徒から教員への申し出も早く、付き添い生徒が迅速に連絡し、早く対応できたケースが多い。【保健課】
	②防災訓練における地域との一層の連携をはかる。【総務課】	②地域自治会、提携教育施設、関係公共機関からの講評をもとに評価する。【総務課】	A	②従来の合同訓練に加え、実際の避難所開設を想定した夜間訓練の実施も行うなど充実にも努めた。大学など研究機関とも連携し、データの共有を図り、その活用をこれからの計画に活かしたい。【総務課】
	③熱中症について事故防止への周知徹底を行う。具体的には『保健だより』の発行や、事故防止啓発ポスターの体育館掲示、運動部幹事会での注意喚起を行う。【保健課】	③年度末に『保健だより』の発行、ポスター掲示、運動部幹事会での注意喚起の効果を検証し、従来と比べて熱中症に関する事例がどの程度削減されたかを評価する。【保健課】	B C	③保健便りを健康管理に役立てたかという項目の評価は良くないが、生徒たちの熱中症に対する意識は高くなっており、熱中症の疑いがあると思われるときに迅速に対応できた。引き続き各事故防止にむけて注意喚起を行っていきたい。【保健課】